

巻 頭 言

今後の総会はどうあるべきか

上野修一 日本精神神経学会理事
Shuichi Ueno

日本精神神経学会の大事な年間行事の1つが、例年6月頃に開催される学術総会である。5,000名を超える会員が参加する総会は、精神科医にとって重要な研鑽の場であり、自身の発表や興味のある講演の視聴のみならず、全国の同志、友人と触れ合うことは、大変価値がある。今年は、仙台で開催することを決定していたが、新型コロナウイルス感染症のため延期され、9月に行われる予定である。3密を避けるため、現地での開催とWEBを用いたハイブリッド方式で行うなど柔軟な対応を検討しているが、采配にあたる総会長の矢部博興先生のご苦勞は推測するまでもない。

個人的に重要な学術総会と意味づけているため、毎年参加させていただいている。テーマは大会長により異なるものの、教育講演、各委員会企画や会員提案によるシンポジウム、ワークショップ、一般口演など発表スタイルはさまざまで、内容も研究色の強いものから、資格更新上必要なもの、貴重な事例の報告、社会的な色合いの強いものなど精神医学のすべてが集まっており、総会に参加すればほとんどの情報が手に入るため、自らの研鑽のために欠かすことができないと感じている。

開催は一部運営を外部に委託しているものの、製薬企業などのバックアップは全く受けておらず、19,000名にも達する会員の会費および総会参加費によって運用されている独立した自主的な会である。総会参加者は精神科専門医の更新単位が獲得できるが、専門医の受験要件に総会への参加を義務づけてもよいと私は考えるが、行きすぎであろうか。

専門医を取得していない専攻医にとっては、参加は自由

で強制力がないため、精神科医として基本的に身につけるべき内容が散りばめられた総会であるにもかかわらず、若手に勉強してもらおう機会として生かされていないのは残念に思う。医学生、初期研修医、専攻医などの発表には賞を用意して参加を募っており、ぜひ奮って参加してほしい。

今年は、新型コロナウイルス感染症のために、WEBでの参加も可能となり、現地に行かなくても参加と認められるそうである。今後、継続的にWEBで開催され現地参加と同等に扱われるようになれば、交通費、宿泊費もかからず総会に参加できる。興味のある内容を好きなきときに視聴でき、忙しい臨床医にとってありがたいものとなるかもしれない。加えて、WEBでは、これまで総会では示せなかったデータの提示や双方向性の講演スタイルの提案など、これまでと異なった形式での発表ができるかもしれない。ただ、新しい研究発表や人との出会いがないのはもの足りない。WEBでの開催にあたり、これまで以上に個人情報保護の保護に気を使わなければならないことや、講演内容の著作権への担保などが必要で、運営する立場では、追加の経費や複雑な配慮が必要となると予想される。

ポストコロナ時代は、望む望まないにかかわらず、これまでとは異なった生活様式になると予想される。精神疾患は、「サイコ・バイオ・ソーシャル」な疾患であり、精神医学分野が社会の影響を受けて変化するのは宿命である。当然われわれの学会の方向性も変化していくだろうし、これからの総会の運営は、その変化を意識して方法や内容を検討する必要があるのではないだろうか。